

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102758
法人名	有限会社イキイキライフセンター
事業所名	グループホームほおずき
所在地	香川県高松市松並町649番地1 (電話)087-815-3810

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年7月7日	評価決定日	平成21年11月27日

【情報提供票より】(21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年1月15日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	10人 常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての2階～3階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	16,000円+実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または 月 30,000円		

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	7名	男性	1名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	58歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	トイバナクリニック、全人クリニック、栗林病院、佐藤クリニック、亀田歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1ユニットの特性を活かし、利用者の希望にそって外食や買物、映画、芝居、故郷訪問、県外への日帰り旅行など個別や全員で、四季折々の外出に家庭的雰囲気がかがえる。1階の開放された玄関前のベンチに座り、お花や車、人の行き来が眺められる。利用者の居室は2階と3階に分かれているが、昼間はほとんど2階のホールでゆったりとその人らしく過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	職員の異動、地域とのつきあいなど改善できるところから取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	職員の異動等で、自己評価は管理者と一部の職員で取り組み作成している。今後、全職員が評価の意義を理解し、全職員で自己評価を行い、日々のケア実践や改善に向けての取り組みを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	ホームの諸般の事情で休会していたが3月から再会している。2か月ごとに運営推進会議を開催し、ホームの状況報告や情報交換をしてサービスの質の向上に活かしている。7月から職員の参加人員を増やす計画である。運営推進会議を継続し、討議内容を職員間で共有し運営に反映する取り組みを期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	毎月、家族に利用者の日常の状況を書いた手紙と「ほおずき新聞」を送付している。家族の面会時は声かけし、意見・要望を聴いて運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	自治会に加入し、「ほおずき新聞」を配布したり、会ではホームのお知らせをしている。また、地域の清掃や夏祭りなどに参加し交流を深めている。管理者は自治会の班長を務め、ホームは地区自主防災会の公助避難場所となっており、地域との協力体制もできている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ほおずきに由来し「ほっ」とした気持ちで、地域の中で家庭的にその人らしく暮らし続けられるように支えていきたい思いを、理念としている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やホールに掲示している。職員には、申し送りノートや話し合いの中で理念の共有に向け取り組んでいる。	○	職員が理念をミーティング等で理解し、日々のケア実践に活かせる取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、「ほおずき新聞」を配布したり、会ではホームのお知らせをしている。また、地域の清掃や祭りに参加するなど、地域との交流に努めている。管理者は自治会の班長を務め、ホームは地区自主防災会の公助避難場所となっている。	○	ホームは地区の自主防災会の避難場所として貢献している。消防署のAED講習会実施や、老人会との交流など、さらなる取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の離職が続き、管理者と一部職員で自己評価を実施している。全職員が理解するまでには至っていない。	○	職員が評価の意義を理解し、自己評価を全職員で行い、日々のケア実践や改善に向けての取り組みを期待したい。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	休会していたが、3月より2カ月ごとに運営推進会議を開催し、ホームの活動状況報告や情報交換を行い、意見は職員で話し合い運営に活かしている。また、職員の参加人員も7月から増やす取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営上の問題など相談し、市との連携を図りサービス向上に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回、家族に担当者が利用者の状況を書いた手紙と「ほおずき新聞」を送付している。利用者の健康状態の変化があればその都度連絡するようにしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置、重要事項説明書に苦情意見などの連絡先を明記している。家族の面会時に意見や苦情を聴いて運営に反映している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職が続いた時期は、管理職、臨時職員の対応により利用者のダメージを最小限に防ぐ配慮をしている。</p>	○	<p>利用者、家族との信頼と馴染みの関係を重要視し、職員が継続して勤められる取り組みが望まれる。</p>
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修案内は全職員に周知し、参加への配慮をしている。また、職員の段階に応じて研修参加を呼びかけている。</p>	○	<p>ホームの研修計画を作成し、職員の資質の向上に取り組むことが望まれる。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の研修に参加し情報交換やサービスの質の向上に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイを利用するなど、利用者、家族と相談しながら少しずつ馴染んでいただけるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、利用者を尊重し、共に学び支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握に努め、希望に添えるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族との情報交換や職員の毎月のミーティングから介護計画を作成している。	○	担当者、本人、家族など関係者の意見を反映した介護計画を作成するよう取り組むことを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月ごとに、モニタリングし見直しを行っている。状況変化があれば関係者で話し合い、その都度現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出、外食、通院介助、ショートステイの利用など利用者、家族の要望に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回は協力病院(内科、歯科)の往診を受けている。利用者・家族が希望するかかりつけ医への受診、連絡など適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から家族や医師と話し合い、ホームの方針を全職員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレや浴室への入室時、声かけやノックをし、「自分がされて嫌なこと」を念頭に、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に希望にそって支援している。時に職員の都合を優先することがあり、職員は改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成は、利用者の嗜好を取り入れ専任の職員が行っている。食事の準備や片付け、食器洗いなど職員と一緒にいき、利用者や職員が同じテーブルで食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて毎日入浴できる支援をしている。希望により夜間の入浴も支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量を活かし、家事、ベランダでの野菜栽培、縫い物などの役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、外食、夏祭り、映画、芝居、故郷訪問など一人ひとりの希望にそって支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が理解しており、安全面を配慮し、日中玄関は開放し、各階へのドアや居室の鍵をかけず自由に行き来できる支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と連携し防火訓練を実施している。ホームは地区自主防災会の公助避難場所となっている。地域の協力が得られる体制もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を個別に記録し、入浴後や夜間の水分補給、起床後のティータイム(食欲不振時はバナナ・ゼリー)など、水分確保や栄養摂取の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間はほとんどの利用者が、対面式キッチン、テレビ、ソファ、七夕飾り、手作り作品など生活感や季節感を採り入れた2階のフロアで居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や手作りのカレンダー、写真を飾るなど居心地よく過ごせる居室となっている。		